英國初學教育條例

十

特279-308
1200501132337
特279
308

始

特279
308

第一附加条目

入學ヲ准許スヘキ時并ニ其職務ヲ從事スル
ニ於テ學生教師タルモノヽ保有スヘキ職任
及ヒ之ニ附與スヘキ證書ノ事

入學准許ノ事

第一條　健康註解ヲ見ルヘシ

醫官タルモノヽ實志願人ノ体格ヲ檢シ決シテ
教師タルヘキ職業ヲ妨害スヘキヿアラサルヲ
察シ確然保證スルヲ要ス

瘰癧拘攣喘息聾視覺聲音等ノ常人ニ若カサ

ルヿ性質病ニ由リテ一眼ヲ盲スルヿ腕脛等
ヲ失フヿ腕脛等ノ常ニ痿痺シテ作用セサル
ヿ脊骨ノ彎曲スルヿ顛狂病ヲ発スヘキ性質
アルヿ其他性質柔弱ニシテ体格作用スルニ
堪ヘサルモノハ如キ總テ皆學生教師ノ職ヲ
欲望スル志願人ノ為メニ適セサルモノトス

第二条　性質品行保証書

其志願人及ヒ其父母家屬等ノ性質品行ニ於ケ
ル純良方正ニシテ教授ノ職ニ在リ衆ノ模範タ
ルニ適シ且能ク勉励シ群生ヲ薫陶スルニ足ル
ヘキヲ察シ果シテ信任スヘキヲ視レハ則チ校
長之カ保証書ヲ制ス

第三条　讀書

凡ソ讀書ハ語法ヲ會得シ明朗ニ音聲ヲ発スル
ヲ要ス

第四条　文典

單簡ノ文章ニ於テハ九品詞ヲ指示スヘキヲ要ス

第五条　習字及ヒ作文

連綴并ニ句讀ヲ正フシ單簡ノ文章ヲ聽書セシ
ム

第六条　算術

四則中ノ單數複數ヲ聽書シテ之ヲ計算セシメ或ハ尺度衡量科目等ヲ會得セシムルヲ要ス

第七条　地理學

地理學ノ初學大意ヲシテ了知セシムルヲ要ス

第八条　教授

幼年生徒ノ教授ヲ做スニ方テハ專ラ深切ヲ主トシ檢査官ヲシテ滿足セシムヘキヲ要ス

第一年ノ終末

第一條　健康

學生教師ハ曾テ身体ノ健康ヲ傷害セルヿ無カ為ニ向後其職務ヲ奉スルニ堪ユヘキ所ノ證書ヲ學校幹支ヨリ交達スルヲ要ス

第二条　性質并ニ品行

第一學校幹支タルモノハ學生教師ノ性質品行ニ就テ其正直ナルヲ洞知シ之ヲ保証スルヲ要ス

第二學校教師タルモノハ學生教師ノ學課時間ニ於テ曾テ怠惰スルヿナク又能ク其指揮ニ順ヒ本分ヲ盡シテ職務ヲ奉セシヿヲ保証スルヲ

要ス

第三条 讀書

前ニ記載セル所ヨリ一層上達ノ語法ヲ學ヒ発音セシムルヲ要ス

第四条 文典

名詞動詞形容詞並ニ單簡ノ文章ニ於テ三詞ノ関係ヲ了會セシムルヲ要ス

拉丁名詞ノ正シキ變化及ヒ拉丁前置ノ詞ヲシテ英語ニ飜譯セシムル等ノ事ヲ學ハシムルヲ可トス

第五条 習字及ヒ作文

單簡文ノ全章ヲ謄書セシメ且之ヲ讀誦スルニ方リ澁滯セサルヲヲ要ス

第六条 算術

男子ノ學生教師ハ簡約法及ヒ比例法ヲ習熟シ女子ノ學生教師ハ簡約法及ヒ高用算ヲ習熟セシムルヲ要ス

第七条 地理學

大不列顛国ノ地形ヲ譜知シ又之ヲ描画スルヲ要ス

第八条　教授

幼年生徒ニ讀書ノ課業ヲ授ケ且其前日ニ授ケシ書ノ解譯ヲナサシメ之ヲ檢査スルヲ要ス

第九条　音樂

適宜ニ音樂ノ課目ヲ設置シタル學校ニ於テハ高低長短ノ譜及ヒ間切譜ノ形状其他引樂線至高引高線等ニ於テ高低長短ノ譜ヲ會得スルヲ要ス

第二年ノ終末

第一條　健康

第一年ノ終末ト同シ

第二条　性質並ニ品行

第一年ノ終末ト同シ

第三条　讀書

第一年ノ終末ヨリモ更ニ上進セシ語法及ヒ発音ヲ以テスルヲ要ス

第四条　文典

代名詞副詞前置詞並ニ文章上ニ於テ三詞ノ関係ヲ了會セシムルヲ要ス

拉丁形容詞及ヒ代名詞ヲ正當ニ變化スル

ヲ之ニ換用シテ可ナルモノトス

第五条　習字及ヒ作文

第一年ノ終末ト同シク單簡ノ文章ヲ諳書セシメ又之ヲ誦讀スルハ渋滞ナラサランヿヲ欲シ且學校幹支ヨリ出シタル所ノ英文書中ノ俗用詩五十行ヲ以テ其語法ヲ正フシ之カ意味ヲ會得シテ再ヒ之ヲ誦讀スルヲ要ス

第六条　算術

男子ノ學生教師ハ分數法ヲ學ハシメ女子ノ學生教師ハ比例式ヲ學ハシムルヲ要ス

第七条　地理學

歐羅巴洲ノ概畧及ヒ昔時ノ「パレスチーン」地方ノ形勢ヲ會得シ且其地面ヲ描画スルヲ要ス

第八条　教授

文典及ヒ算術ノ初學大意ヲ幼年生徒ニ撿査シ其時間中ハ生徒ヲシテ次序ヲ紊乱セシメ或ハ喧囂ナラシムルヿナクシテ勉勵セシムルヲ要ス

第九条　音樂

適宜ニ此課目ヲ設置シタル所ノ學校ニ於テハ

点的高低長短ノ譜及ヒ間切ノ譜樂節其他八音樂格ノ種類等ニ記号等ヲ會得スヘキヲ要ス

第三年ノ終末

第一条　健康

第一年ノ終末ト同シ

第二条　性質及ヒ品行

第一年ノ終末ト同シ

第三条　讀書

前年ヨリモ更ニ上進セル所ノ語法及ヒ発音ヲ以テスルヲ要ス

第四条　文典

代名詞副詞前置詞并ニ文章上ニ於テ三詞ノ関係ヲ了會セシムルヲ要ス

拉丁形容詞及ヒ代名詞ヲ正當ニ変化スルヿヲ之ニ換用シテ可ナルモノトス

第五条　習字及ヒ作文

第一年ノ終末ト同シク単簡ノ文章ヲ讀昏セシメ又之ヲ誦讀スルハ渋滞ナラサランヿヲ欲シ且學校幹叉ヨリ出シタル所ノ英文書中ノ俗用詩五十行ヲ以テ其語法ヲ正フシ之カ意味ヲ會

得シテ再三之ヲ誦讀スルヲ要ス

第六条　算術

男子ノ學生教師ハ分數法ヲ學ハシメ女子ノ學生教師ハ比例式ヲ學ハシムルヲ要ス

第七条　地理學

欧羅巴洲ノ概畧及ヒ其時ノ「パレスチーン」地方ノ形勢ヲ會得シ且其地畫ヲ描画スルヲ要ス

第八条　教授

文典及ヒ算術ノ初學大意ヲ幼年生徒ニ檢査シ其時間中ハ生徒ヲシテ次席ヲ紊乱セシメ或ハ喧囂ナラシムルヿナク無シテ勉勵セシムルヲ要ス

第九条　音樂

適宜ニ此課目ヲ設置シタル所ノ學校ニ於テハ点的高低長短ノ譜及ヒ間切ノ譜樂節其他ハ音樂格ノ種類并ニ記号等ヲ會得スヘキヲ要ス

第三年ノ終末

第一条　健康

第一年ノ終末ト同シ

第二条　性質及ヒ品行

城氏藏

第一年ノ終末ト同シ

第三条　讀書

前年ヨリモ更ニ上進セル所ノ語法及ヒ発音ヲ以テスルヲ要ス

第四条　文典

文章ヲ分解シテ接續詞ヲ會讀スヘキヲ要ス

拉丁語ノ自他両個ノ規則動詞及ヒ有ト云フ義「イス」ナル動詞ヲ変化スルヲ以テ代用セシムルモ亦可ナリ

第五条　習字及ヒ作文

検査官ノ撰定シタル題ニ由リ日課ノ業ヲ昏記シ且談官ヨリ出シタル俗用詩四十行ヲ再三誦讀シ以テ其意味ヲ了會スルヲ要ス

第六条　算術

男子ノ學生教師ハ十数ノ分数ヒ「イウクリッド」止昏第一冊初題ヨリ十五題ノ終ニ至ルマテヲ習熟セシメ又女子ノ學生教師ハ通常ノ分数ヲ學ハシムルヲ要ス

第七条　地理學

海外ノ植民地ヲ會得セシメ之カ地圖ヲ製セシ

ムルヲ要ス

第八条　歴史學

英王「イグベルト」ヨリ現今ノ女王「ヴイクトリヤ」ニ至ル歴代ノ沿革ヲ了知シ且其年月等ヲ併テ之ヲ審カニスルヲ要ス

蘇格蘭ノ學校ニ於テハ「アレキサンドル」三世ヨリ以下歴代ノ年月等ヲ誦讀シ以テ英王「ゼーム」ス」一世以前ニ代フ

第九条　教授

第二級生徒ニ文典地理書并ニ目算等教授シ之カ試験ヲ做スヲ要ス

第十条　音樂

此課ヲ教授セル學校ニ於テ声調ノ高低又ハ清濁ニ音ノ分別及ヒ不次ノ高低音ヲ會得スルヲ要ス

第四年ノ終末

第一条　健康

第一年ノ終末ト同シ

第二条　性質及ヒ品行

第一年ノ終末ト同シ

第三条　讀書

前年ヨリ一層高等ノ語法及ヒ発音ヲ以テ誦讀スルヲ要ス

第四条　文典

文典ノ曾テ習學セルモノヲ再習シ且「拉丁語」ノ前置詞ヲ英語ニ飜訳スルヲ要ス

成就セルト云ヘル義ノ「ポッス」好ムト云フ義ノ「ウイル」一致ト云ヘル義ノ「コンコルズ」ヲ変化スルヿヲ以テ之ニ充ルモ亦可ナリ

第五条　習字及ヒ作文

學校ノ来歴及ヒ教授ノ方法ヲ層記シ且詩句ノ百行ヲ発吟シテ其意味ヲ理會スルヲ要ス

第六条　算術

男子ノ學生教師ハ「イウクリット」層第二十六題ノ終ニ至ルマテ及ヒ代数四個ノ初則等ヲ學ハシメ女子ノ學生教師ニハ十数ノ分数ヲ習ハシムルヲ要ス

第七条　地理學

亜西亜及ヒ亜非利加ノ二大洲ヲ審知セシメ之カ略圖ヲ作成セシムルヲ要ス

第八条　歴史學

英王「ヘンリー」第七世ノ即位セシマテ英史ノ概略ヲ了解セシムルヲ要ス

第九条　教授

文典地理學及ヒ諳算等ヲ第一級生徒檢査シ又合併セシ二級三級ノ生徒ニ學課ヲ教授スルヲ要ス

第十条　音樂

此教授ヲ做セル學校ニ在テハ低韻樂格上ニ於ケル高低長短譜及ヒ大小樂格又ハ通例ノ樂格用ヰタル記号ヲ釋知スルヲ要ス

第五年ノ終末

第一条　健康

第一年ノ終末ト同シ

第二条　性質及ヒ品行

第一年ノ終末ト同シ

第三条　讀書

前年ヨリ更ニ高等ノ語法及ヒ発音ヲ以テ誦讀スルヲ要ス

第四条　文典

嘗テ習知シタル所ノモノヲ復讀シ且英法ノ由リテ起リタル根原并ニ進捗シタル所以ヲ説明スルヲ要ス

前年ニ於テ學シタル所ノ拉丁語ヲ復習スルモ亦可ナリ

第五条　習字及ヒ作文

檢査官ノ撰定シタル原文ノ単簡ナルモノヲ看セシメ且通常文ノ八十行ヲ誦説シテ其意味ヲ會得スルヲ要ス

第六条　算術

男子ノ學生教師ハ「イウクリット」看ノ第一冊及ヒ通例算術并ニ代数學ノ習學シ得タル規則ヲ再習セシメ又女子ノ學生教師ハ通常算術ノ曾テ學ヒ得タルモノヲ復算セシムルヲ要ス

第七条　地理學

南北亜米利加及ヒ大洋洲ノ位置形勢ヲ了會セシメ且其地圖ヲ画カムルヲ要ス

第八条　歴史學

「ヘニリー」王第七世ノ即位ヨリ今代ニ至ル英國史ノ大略ヲ讀習スルヲ要ス

第九条　教授

「ガルレリー」ノ類（脚架）上ニ於テ學課ヲ與ヘ檢査官ヨリ撰定シタル趣旨ヲ以テ第一級生徒ニ教授スルヲ要ス

第十条　音樂

此課業ヲ教授セシ學校ニ於テハ声調ノ換易又高声及ヒ通常ノ引樂線ヲ會得シ且其既ニ習字セルモノヲ復習スルヲ要ス

画學ヲ兼習セシムル學校ノ条規ヲ論ス

第一条　凡ソ學生教師ノ學課年限中ニ於テ線的地理學并ニ線的視學ヲ習知シ諸般ノ物体ヲ描画スルヲ得ハ一々之ヲ簿冊中ニ記入シ後来檢査ヲ做ス時ニ於テ其点数ニ從ヒ亦業眉ヲ附與スヘキモノトス

第二条　斯ノ如キ學課ハ終業年間ニ於テ順次ニ之ヲ踐履スヘキモノトス

第三条　學生教師タルモノハ毎年三月ノ交ニ於テ學務局ニ附屬セル画學校ノ檢査ヲ受クルヲ要ス

第四条　學生教師ハ仮令斯ノ如キ画學校ニ於

テ檢査ヲ受ケサルヿアルモ其就學セル校内ノ
幹支共ニ該画學校教師ノ合議ニ由リテ毎年其
檢査ヲ受ルヿヲ得セシムヘシ
第五条　凡ソ圖画ノ檢査ハ各學校ニ於テ毎年
十一月之ヲ施行スルヲ以テ學校吏員ヨリ許可
ヲ得タル所ノ學生教師ハ適宜之ニ出席シテ其
檢査ヲ受ケシムヘキモノトス
第六条　教授ノ方法共ニ其期日場所等ヲ知得
セントト欲スルモノハ倫敦府南「ケレシントン」學
務局ノ書記官ニ對シ看牘ヲ発シテ之ヲ尋問ス

ルヲ可トス
檢査官ノ學校ヲ巡視スル時ニ在テハ圖画ノ檢
査ヲ受クルヿヲ得ス

女子學生教師ニ就テノ支ヲ論ス

女子學生教師ハ其入學スル以前ニ於テ學校幹
支及ヒ女教師タルモノヨリ裁縫支業ノ能ク熟
達セルヿヲ保證スヘシ又毎年ノ檢査時ニ際シ
テハ本人ノ嘗テ女紅學ニ從支セシヤ否ヤヲ詳
細ニ記載シタル女教師ノ上申状ニ其自製セシ
針巧物ヲ添加シテ之ヲ檢査官ニ進呈スヘシ而

シテ檢査官ハ之ヲ以テ老練セル裁縫家ニ示シ
其ノ巧拙ヲ問決スヘキモノトス

第二附加条目

定約證書ノ体裁

（第七十条）

六「ペンニー」ノ印紙ヲ貼用シ以テ之ニ信
印スヘシ

學校幹夏某ヨリ學生教師ノ父若クハ其證人ト
定約シタル證書

上ニ云フ所ノ學校幹夏或ハ其代理者ヨリ學生
教師ノ父若クハ證人及ヒ其委托人ト定約スル
可キ次条ニ於テ示ス所ノ如シ

第一条　學校幹夏タルモノハ學生教師ヲシテ
卒業證書ヲ附與シタル教員ノ下ニ屬シテ通常
ノ課業時間ハ下等ノ生徒ヲ教授セシムルコヲ
定約ス然レ𪜈日曜日ヲ除キ一日二一週日二三
十日以上ヲ務メシムルヲ要セス

第二条　此定約ハ一千八百七十何年何月（第十
一条ニ掲出セル月）一日之ヲ始メ全七十何年何
月（全二年乃至五年ニ正當スル前月）三十一日二

終ルモノトス

第一勤務時限ノ減スルニ從ヒ其檢査ヲ了スル毎ニ例年之ヲ掲載スヘキモノトス

第二勤務期限ハ十八年間ヲ踰越スヘカラサルヿヲ掲載スヘシ

然レ𪜈定約滿期前月三方リ學務局負ノ許可ヲ得師範學校ニ入ルヘキ為ニ其檢査ヲ受ク此定約ハ即日終ルヘキモノトス

第三条　學生教師ノ給料ハ一週若クハ二三週ニ付幾許トシ期限閑一週若クハ二三週毎ニ幾許ヲ增給ス

給料ノ額ハ地方ニ從ヒ適宜ニ他ノ給料ト比較シテ之ヲ附與スヘシト雖𪜈亦學校ノ利益如何ニ就テ學務局委員タルモノヨリ之ヲ決定スヘキモノトス

然リト雖𪜈統學院檢査法則書中ニ掲載セル前年ノ規則ニ從ヒテ檢査スヘキヲ學校齡及ヒ教師ノ間ニ於テ其方法ヲ誤リ或ハ學生教師ヨリ他ノ定約ヲ交結スヘキニ之ヲ累サルル等ノ支アリテ若シ談自ヨリ責問セラルヽヿ後來ニ於テ其額ヲ增加スヘカラサルモノトス

第四条　學生教師タルモノハ閉校中ト雖モ無謝ニシテ一週日ニ就キ五時間ノ教授ヲ受ケ得ラルヘキモノトス而シテ其之ヲ教授スル人ハ彼卒業證書ヲ附與シタル教師ヲシテ之ヲ擔任セシム然リト雖モ一日ニ時間ヨリ多カラサルヘシ斯ノ如キ出格ノ教授ヲ受クル所以ノ旨趣ハ後日ニ至リ檢査規則ニ從フテ檢査セラルヘキヲ以テナリ

第五条　若シ學生教師ニシテ怠惰不遜或ハ品行ヲ壞ヾスルアレハ直ニ退學ヲ命スヘシ而シテ訣定約ハ六月ノ報告ヲ出シテ之ヲ終ルヘキモノトス否ラサレハ第一年ニハ三「ポン」上第二年ニハ四「ポンド」順次之ニ例シテ定約ノ滿期ニ至ルマテ毎年增加シタル金額ヲ辨償セシムヘシ然リト雖モ六「ポンド」ヲ踰越スヘカラス抑斯ノ如キ金額ハ之ヲ本人ノ負債ト看做シテ還納セシムヘキモノトス

第六条　學生教師タルモノハ證人ノ兼諾ヲ經テ定約書ニ記名スルトセサルトハ適意ニ任セシムヘシ

第七条　該證人ハ此定約期限中ニ於テ學生教
師ニ衣食住ノ用ヲ供シ其身体ヲ保護スヘキヿ
ヲ學校幹支及ヒ其代理人ト結約スルヲ要ス
一千八百七十何年何月何日
何誰
何誰
ノ前ニ於テ之ニ捺印スルモノナリ
該書中ニ記名セシ所ノ人ハ一所ニ於テ信印
スヘカラス必ス列次ヲ正シテ之ヲ做スヘキ
ナリ而シテ其側ニ於テ保證人ノ檢印ヲ捺シ

以テ之ヲ証明スヘキモノトス
忠告
第一条　此定約證書ハ其中ニ記名セシ所ノ人
即チ學校幹支及ヒ學生教師又其證人タルモノ
之ヲ作成スヘキモノトス
第二条　該書中ニ於テ若シ餘白ヲ存スルヿアー
レハ後日之ニ填充スルヲ得ヘシト雖ヒ其件ハ
則新定約タルヲ以テ更ニ印紙ヲ貼用シテ之ニ
信印セサルヘカラス若シ定例ヲ把スヿアレハ
則第三十二条ニ違戻セルモノトスル

第三条　既ニ誠證書ヲ作成シタル代ハ之ヲ校中ニ備ユヘシ而シテ證人タルモノハ第二印ヲ用ヒタル證書ノ副本ヲ製置スルヲ要ス此定約ハ之ニ捺印セシ各人ノ間ニ存スヘキモノニシテ若シ學校幹支ノ任免死去等ニ由リ人名ノ更換スルヲアレハ則之ヲ統學院ニ申請シテ次条ノ如ク新定約ノ指令ヲ受ケヘキモノトス

學校幹支ノ任免死去等ニ由リ新定約ノ体裁

學生教師ノ證人某又罷免死去セシ學校幹支ノ代理人及ヒ新任幹支ノ間ニ於テ更ニ交結セシ定約證書

第一条　誠證人ト旧幹支ノ代理人トニ於テ交結セシ定約ハ今日ニ至リ全ク廃棄シタルヲ誓明スヘキモノトス

第二条　誠證人ト新任幹支ハ是ニ於テ互ニ定約ヲ倣スニ其書式等凡テ旧約ノ如クナラサルヘカラス而シテ旧定約期限ノ全ク終ラサル間ニ在テハ新定約ヲシテ仍ホ之ト同一ニ施行セシメ唯新任幹支ノ姓名ヲ以テ旧任幹支ノ名ニ交換シ之ニ捺印セシムルノミ

一千八百七十何年何月何日

何誰

何誰

ノ前ニ於テ之ニ信印スルモノナリ

六「ペン」ノ印紙ヲ貼用シテ定約書ニ

捺印セシモノハ之ニ各名ノ首字ヲ記シ

其ニ日月ヲ書載スヘシ

該書中ニ記名セシ所ノ人ハ一所ニ於テ

信印スヘカラス必ラス列序ヲ正シテ之

ヲ做スヘキナリ而シテ其側ニ於テ保證

二十人ノ檢印ヲ捺シ以テ之ヲ証明スヘキモ

ノトス

忠告

第一条　此定約書ハ其中ニ記名セシ所ノ人即

チ學校幹事及ヒ學校教師又其證人タルモノヽ

之ヲ作成スヘキモノトス

第二条　該書中ニ於テ若シ餘白ヲ存スルヿア

レハ後日之ニ填充スルヲ得ヘシト雖モ其件ハ

則新定約タルヲ以テ更ニ印紙ヲ貼用シテ之ニ

信印セサルヘカラス若シ定例ヲ犯スヿアレハ

則第三十二条ニ違戻セルモノトス

學生教師ノ勤務定約ヲ刪除スベキ事ヲ論ス

前ニ記載シタル定約書ハ曾テ之ヲ作成セル人ニ由リテ又刪除シ得ヘキモ稍ナリ

一千八百七十何年何月何日　何誰

建築扶助金ニ就キ一千八百七十年発行ノ法則書第二十二条ヨリ第三十七条ニ至ルヲ論ス

何誰

第二十二条　小學校ヲ新築スベキニ方リ貴族タルモノ次ノ四件ヲヽ解スルニアラサレハ之ニ助金ヲ付與セス

第一　已レノ居住セル近境ニ於テ學校ヲ建築スルニ方リ工作者ノ若干人アル事

第二　學校ヲ建築セシ同宗旨ノモノハ生徒ノ供給ヲ委任スヘキニ堪エタル事

第三　學校ハ後来ニ於テヨク維持シ得ヘキ事

第四　建築ノ申願ヲ做セシ時ニ於テハ未タ其工業ニ着手セス又未タ其受負人ヲ決定セス或ニ貸地ノ證券ヲ未タ作成セサリシ事

第二十三条 小學校ヲ築造スヘキニ就テ統學院ヨリ所ノ扶助金ハ次ノ限界中ニ於テ之ヲ踰越スヘカラス

第一限界 學校ヲ設置シタル寺領又ハ該校ヨリ四里半以内ノ地ニ住スル人民并ニ地主工匠等ヨリ寄附シタル所ノ總金額

第一 各人養銀

第二 學校ヲ設置シタル寺領又ハ該校ヨリ四里半以内ニアル小寺院ノ集金

第三 築造請負人ノ決シタル價直ヲ以テ買得シタル材料

第四 地價ヲ要セスシテ附與シタル場所

第五 車税

第二限界 親規ニ構造セル教場及ヒ生徒室内ノ廣サ平方一間「上」毎ニ二ヨルリング「六ペンニ」

第三限界 教師ノ家室ハ六十五ポント「上」

第二十四条 決算簿明細書貸地證券等ハ預メ統學院ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第二十五条 地方ノ寄附金及ヒ統學院ノ扶助

金ヲ以テ平均シ得サル所ノ費金残金等ハ賚銀ノ如キ要用金額ヲ以テ之ヲ埋筭シテ可ナルモノトス

第二十六条　日曜日ノ三ニ用ユル所ノ校室及ヒ祭神拜礼ヲ做スカ為ニ設ケタル堂ノ如キハ決シテ助金ヲナスヿアラス又建築負債却ニ家屋維持ノ為ニ之ヲ做スヿアラス而シテ又第二十三条ニ準拠シテ巨多ノ金額ヲ受用シタル學校ヲ盛大ニシ且之ヲ脩繕スルカ為ニ之ヲ做スヿアラス

第二十七条　生徒ヲ増加セシムルカ為ニ現今ノ教場ヲ更ニ廣大ナラシメ若ニ教師ノ住スヘキ家屋ヲ造営スルカ如キハ第二十三条ニ準拠シテ能ク之ヲ處分セサルヘカラス

第二十八条　統學院ノ許可ヲ受ケタル村落學校ニ於テハ二十「ポンド」以下其他人學校ニ於テハ五十「ポンド」以下ノ扶助金ハ之ヲ申請スルヲ得ス

學校ヲ建築スヘキノ地

第一校地ノ廣サハ一千二百平方「ヤルド」以上タ

ルヘシ

第二位置ハ健康ヲ害セス又喧噪ナラサル地ヲ擇ヒ且生徒家屋ト離隔セサル所ニ於テスヘシ

第三　土地ハ民有ノ世襲地タルヘシ

一　該地ヲ使用セル以上ハ從前ノ地主ヲ其權利ヲ保存セシムヘカラス

二　該地上ニ於テ礦岳ノ生スル必アリテ若之ヲ損害スルコアラハ預メ之ヲ約シ其地ノ委任ヲ受ケタル各員ヨリ賠償スヘキモノトス而シテ統學院ヨリ給與シタル所ノ扶助金ハ此償金ニ就テ第一ノ出金タルヘシ且此償金ノ總計ハ内務局書記官ニ申請スルヲ要ス

三　内務局書記官ノ允許狀ナキトキハ仮令該地ヲ貸與シ賣却スヘキ權利ヲ有スルモ之ヲ做スヿヲ得ス且之ヲ已レニ還納セシメント欲スルカ如キハ從前ノ助金ヲ辨償スルニアラサレハ做シ得ヘカラサルモノトス

四　民有世襲地ノ如キハ其地ニ就テ貸

地法ヲ設クルヿヲ許可スヘカラス而シテ其時限ハ必ス九十九年以上タルヘシ

又不正ノ貸地定約ヲナスヿアラシムヘカラス且之カ地税ヲ設クルヿアラシムヘカラス

五　然リト雖氏国王ヨリ附與シタル所ノ土地耶チ「コッピーホル」ナルモノハ凡テ何人ニ関係スルヲ論セス適宜ニ之ヲ許可シ得ラルヘキトス

土地沽券

第三十条　此沽券中ニ登録スヘキモノハ貧人子弟充分ノ教育ヲ受ケサルモノヽ為メニ学校ヲ設立シ以テ之ヲ救助セントシ土地ヲ委任スルヿ若クハ其土地中ニ有スヘキ正当ノ権利且ツ以下列載セル学校々長ノ二三名ヨリ該校ヲ管理スヘキ事等ナリ其各所学校ヲ挙クレハ左ノ如シ

「チヤーチ、オフ、イングランド、スクール」

「ブリチシユ、スクール」「イスタブリーシユド、

チヤーチ、オフ、スコツトランド、スクール」
「ウエストーアン、スクール」「フリー、チヤーチ、ス
クールス」「ローマン、カトリツク、スクールス」
「チウイシユ、スクールス」「イヒスコーハル、チ
ヤーチ、スクールス」「アンデノミネシヨナル、
スクールス」等ナリ

第三十一条　凡ソ斯ノ如キ法券ハ統学院ノ照
査准可ヲ経テ其模式ニ従ヒ以テ之ヲ記載スヘ
キモノトス既ニ触ク之ヲ記了スルニ至レハ更
ニ捺印奥書ヲ做シ之ヲ該院ニ進呈スヘキナリ

第三十二条　既ニ此法券ヲ以テ委任セル学校
ヲ盛大ニシ或ハ改造スル為メニ助金ヲ要セン
ト欲スル片ニハ其ノ法券ト共ニ申請書ヲ呈進
スヘキモノトス之ヲ受理セル官吏ハ宜ク鞭ク
該校ノ為メニ謀リテ遠大ノ利ヲ與サシメンヿ
ヲ要ス然レトモ斯ノ如キ憲公ハ女帝陛下即位
紀元十八年及ヒ十九年間発行ノ律令弁百三十
篇中ニ論述セル趣旨ト稍相反馳スルニ似タリ

建築雛形

凡ソ建築雛形ハ明細簿及ヒ算計簿ト共ニ学校

管理者ニ附与スヘキモノナリト雖モ准許未タ了ラス助金尚ホ与ヘサルヲ以上ハ統学院内ニ留メ置クモノトス

学校ヲ盛大ニシ及ヒ改造スル為メニ要セル助金ノ方法ヲ論ス

第三十四条　凡ソコノ助金ノ全額ハ土地沽券及ヒ建築雛形ノ各其處分ヲ了リシ後ニ於テ遍ネク報知スヘキモノトス

第三十五条　凡ソコノ助金ヲ下附スルニ至ル日限ヨリ十四日ヲ過キサルヘシ

第三十六条　此助金ヲ下附スルハ渾テ其学校建築ニ関セル官吏ヨリ証書ヲ呈シ工作已ニ竣リタルヲ告ケ且ツ其従来所有ノ寄附金惣額ヲ決算シ以テ之カ統計簿ヲ制定スル時ニ於テスヘキナリ

第三十七条　凡ソ五十磅金以下ノ助金ハ其全額ヲ布告セル時日ヨリ九ケ月ノ間ニ於テ下附セラルヘキヲトス又五十磅金以上ハ十八ケ月ノ間ニ於テ下附セラルヘシ万一コノ期限ヲ過

クルヿアレハ是レ全ク下附セサルヿト看做ス
ヘシ

普通教育各種ノ学科ヲ論ス

凡ソ普通一般ニ行ハルヘキ各種ノ学科ハ地学、史学、文法、数学、測量学、理学、窮理地学、博物学、経済学、語学及ヒ下文ニ記載セル第四五六課ニ於テ学力ニ應シテ講習セル諸科ナリトス

斯ノ如キ諸学科ヲ講習シ更ニ新理ヲ発明シ諸児童ヲシテ智覚力実検力ヲ擴張セシメ以テ各種学科ニ通暁セシムルニ至ルハ全ク其試検官ト教官トノ擔任スヘキ所タリ

此普通学科ノ如キハ都鄙ニ由リテ稍差異ヲ生スルヿアルヘシト雖モ素ヨリ一般ニ行ハルヘキモノナレハ均シク各所ノ学校ニ應用シテ勉メテ差異ナキヲ要スヘシ若シ又之ヲ採擇錯綜セント欲スル教官アレハ必ス先ツ試検官ト協議照會スルヿアリ次回試検ノ中ニハ何々ノ方法ヲ行フヘキヿヲ豫約スヘキヿトス

前文ニ列載セル各種学科ノ次序ニ従フテ更ニ之カ課目ヲ立テ逐次ニ採用シテ教授スルコト

左ノ如シ但シ画術及ヒ音楽ハ第二十一条ニ論定セル旨趣ニ従フテ採用セサルナリ

地学

第四課　輿図ノ大別及ヒ地図ノ意義ヲ了解セシムヲ要ス

第五課　前課及ヒ山川ノ顕著ナルモノヲ知ラシメ次ネテ「イングランド」「ウエルス」ノ地図ヲ展観シ各学區分置ノ州郡ヲ指示セシム

第六課　欧羅巴諸國ノ首府若クハ山河ノ著明ナルモノヲ了知セシメ次ネテ「イングランド」「アイルランド」ノ地図ヲ展観シ各所ノ鉄道線ヲ指示セシム

史学

第四課　英國史ヲ誦讀シ其理乱ノ概畧ヲ知ラシム即チ「ウイルヒム」一世以後ノ大要事件ヲ摘採シ能クヒヲ記憶セシム

第五課　同前

第六課　各國歴史ヲ誦讀シ盛衰沿革ノ梗槩ヲ知ラシム

又英國史中ニ就キ都府州郡地方村落等ノ區分

ヲ明カニセシム

数学

第四課　命位及ヒ加法、減法、

第五課　乘法、除法、

第六課　正比例

語学

英文典及ヒ文章

各課毎ニ題目ノ増加セル文典及ヒ其言語詞辞ノ分解ト英語ニ於テ屈制セル文章ノ理會

第四課　通常言語ノ百五十行以上若クハ二百行以上ノ詩ヲ背誦解説セシム其意義ヲ解説セシム

第五課　通常言語ノ百八十行以上及ヒ二百行以上ノ詩ヲ背誦解説セシム

第六課　通常言語ノ二百行以上及ヒ三百行以上ノ詩ヲ背誦解説セシム

凡ソ斯ノ如キ諸課ハ逐次ニ卒業スヘキ了ナリト雖モ既ニ之ヲ識得スレハ復タ之ヲ次課ニ於テ学習スルヲ要セス而シテ各課ヲ卒業シテ次課ニ昇ルノ了ハ渾テ試検官ノ准可ヲ受ケサル可ラサルナリ

拉丁語、法蘭斯語、日耳曼語、

第四課　文典発端ヨリ動詞ニ至ル

第五課　規則動詞及ヒ文章論中ノ第一規則及ヒ三、四語ノ短章ヲ摘出シ英語ニ譯シテ口誦シ其語法句則ノ定規ニ適合セシヲ要ス

第六課　不規則動詞及ヒ前課ヨリ一層長キ文章ヲ摘出シ拉、法、日、ノ三語ニ譯シテ口誦セシメ語法句則ノ定規ニ適合セシヲ要ス

窮理地学

第四課　地球ノ形躰海陸ノ區別大陸ノ形狀ヲ講明ス

第五課　全前及ヒ山嶽ノ形勢大洋ノ區分ヲ了知シ氣ネテ大洋潮汐ノ流瀉ヲ論ス

第六課　全前及ヒ雰圍氣流動、貿易風尚、人種區別、動植物差異ヲ論ス

動物窮理

第四課　人躰骨骼ノ成立及ヒ其解剖名称ト位異トヲ論ス

第五課　筋骨ノ組織血脈ノ循環及ヒ人類ノ吸氣ヲ論ス

第六課　全前及ヒ飲食滋養、五官機能、神経作用等ヲ論ス

第五条目

追加規條

下条登載セル所ノ追加規條草案ハ試検官ヨリ巡視報告ヲ発行セル件ニ於テ其学校ニ送附スヘキモノトス

第一則　試検条目中第十一行ニハ最下級ノ生徒ヨリ毎級其序ニ従フテ各人ノ姓名ヲ記載スヘキナリ

第二則　第六行初頭ノ記載ハ試検ノ順序ヲ定ムルモノニシテ甲級ハ何處ヨリ始マリ乙級ハ何處ニ於テ終ハルカヲ顕示スルナリ又各級生徒ノ員数ハ一様ニ記載シ最モ瞭然タランコトヲ要ス且数回ノ試検ヲ重ネ各級ヲ循環シテ最上級ニ至ル毎ニ必ス(ノ)ノ如キ点子ヲ施シ以テ之ヲ識別シ決シテ混淆ス可ラサルナリ

第三則　第七行中乙ノ初頭記載ハ甲課ハ何處ヨリ始マリ乙課何處ニ於テ終ハルカヲ顕示スルナリ又各課ヲ顕示スル所ノ数ハ一様ニ記載

シ各課ヲ循環スル毎ニ(四)ノ如キ点子ヲ施シ以テ之ヲ識別シ必ス各課ヲ混淆ス可ラス

第四則　第七行ノ乙ニ於ケル各課ノ終リハ第六行各級ノ終リト同一ニスルヲ要セス且コノ初頭ニ記載セルモノハ等級ヲ終ハルモ未タ課目ヲ終ハラサル第六番生又課目ヲ終フルモ未タ等級ヲ終ラサル所ノ第八番生及ヒ等級課目ヲ兩ナカラ終フル所ノ第十六番生ニ比較スヘキモノトス

第五則　凡ソ学校司事官ハ出席ノ多数ニ人シ由リテ試検ヲ許サレタル生徒ヲシテ各級内ニ記載セサルモノト雖モ第六則ノ旨趣ニ照準シテ格外ニ落第スル者ニ非レハ亦学校簿冊中ニ記載セル通常ノ生徒ト同般ニ看做サヽルヲ得サルナリ

第六則　凡ソ以上ノ規條ニ照準シ試検ノ件ニ於テ制定セル課目ヨリ更ニ下級ノ課目中ニ記載セル童児ハ格外ノ名目ヲ以テ条目ノ最下ニ記名スヘキモノトス否ラサレハ第二則三則ニ反馳スルニ至ルヘシ且ツ従前ニ於テ疾病等ノ

事故アリ格外ノ部ニ記名スルカ如キ已ムヿヲ得サルモノニ非ルヨリハ一名タリ𪜈謾リニ格外ニ置クヘカラス是レ蓋シ自己当今ノ級ニ於テ相應ノ試検ヲ受クル可ラサルハ從前其級内ニ在リテ教授ヲ受ケタルヿハ素ヨリ不当ノヿナレハナリ

第七則　凡ソ試検官ナル者ハ第二則三則ニ背反セル学校生徒ノ試検ヲ停止スルヿヲ得ルモノトス且斯ノ如キ生徒アルニ至レハ該官必ス之ヲ究問スヘキナリ

第八則　八歳以上ノ生徒ヲ教育スル昼学校ニ於テハ生徒ノ進歩第五則ニ照準レテ第十一課ニ及第スル至ルニ非ルヨリハ之カ試検ヲ為レテ該校ニ助金ヲ附与スルヿナキナリ

第九則　十歳以上ノ生徒ヲ教育スル所ノ昼学校ニ於テハ同級ニシテ試検ヲ受クヘキ生徒尽ク第五則ニ照準レテ第十一課以上ニ及第スルニ非レハ助金ノ十分一ヲ減省スヘシ

第十則　凡ソ何等ノ学校ヲ論セス其生徒就学時限ノ平均ヲ知ラントヲ要セハ其毎日記名スル

所ノ簿書ヲ検閲シ其生徒就学ノ惣時日ヲ合計シ其時限間閑校ノ日数ヨリ減去スヘシ即チ其生徒就学ノ惣日数ヲ知ルニ至ラン

第十一則　定規ニ従フテ合法ノ教授ヲ受ケサル生徒ノ就学時限数ハ二時間以上ヨリ算入スヘキ丁ニシテ之ヨリ短キモノハ算セサルナリ

又夜学出席ノ数ハ一時間半ヨリ超算スヘキ丁ニシテ之ヨリ短キモノハ算入スヘカラス且ツ凡ソ生徒ノ名簿ハ毎日閑場ノ前ニ於テ記載スヘキモノトス既ニ閑場スルニ至レハ即時ニ之ヲ止ムヘシ

若シ一人ノ童児就学スルアリ其簿冊中ニ記名シタル後未タ閑場セサル前ニ退去スルアレハ教官必ス石盤若クハ黒版上ニ記号ヲ為シ置クヘシ決シテ直ニ其名簿ヲ刪除シテ紛雑ヲ為ス可ラス必竟掌記ノ為メニ一ノ星点ヲ書シ後日ニ至リテ之ヲ改正スヘキナリ

又カノ試検官ナル者ハ鉦リ百事ニ注意シ諸学校ニ於テ以上記載セル如キノ規條ヲ遵守スルヤ否ヤヲ査察スルヿヲ要ス

第十二則　凡ソ何等ノ童児モ二週日間就学セサルモノアレハ直ニ其就学簿ヨリ本人ノ姓名ヲ刪去スヘシ而シテ本人ノ累シテ退学セシヤ否ヤヲ其双親ニ問フヲ須ヒサルナリ而後其事情ニ由リテ双親ニ究問シ其答辞ニ由リテ之カ進退ヲ決スヘキナリトス且ツ斯ノ如キ生徒ノ姓名ハ直ニ就学名簿ヨリ刪除シ然ルノ後寄留簿等ヨリモ除去スヘキモノトス且其従前就学ノ日数ハ刪去スヘキモノニ非ス必ス第十則ニ従フテ之ヲ算計シ以テ詳細ニ記載スヘシ

試検條目ノ草稿中第二行第六行第七行ノ乙ハ第二則三則ニ依フテ制定セルモノトス其試検条目ノ如キハ之ヲ略ス

○一千八百七十二年発行法則書改正條款

第十七条　凡ソ夜学校ニ於テハ自家勤務約定ヲ信実ニ為シタル師範生徒ニ由リテ教授セラルヘキナリトス

第十九条　凡ソ童児タル者適当ノ卒業証書ヲ受得セル教官ニ由リテ学習スルナリアレハ何人ヲ論セス必ス十「シルリング」ノ謝金ヲ附与スヘ可

キヿトス

第二十一条　凡ソ前年中同題ヲ以テ試検セル生徒ノ為ニハ統学院ヨリ更ニ助金ヲ附与セサルヿトス

第二十二条　夜学校ノ助金ハ第百〇六条ヨリ百十二条ニ論定セル所ニ由リテ定ムヘシ又一年間ニ八十回以上夜学校ニ就学スルモノアレハ学校司事官ヨリ第百〇七条ノ旨趣ニ従フテ之ヲ處分スルヿアルヘシ

五十回以上夜学校ニ就学セル生徒ハ其試検ノ際ニ当リテ七「シルリング」六「ペンニー」ノ金ヲ受クルヿヲ得ヘシ乃チ讀書ニ就テハ二「シルリング」六「ペンニー」ヲ受クヘク習字ニ就テハ二「シルリング」六「ペンニー」算術ニ就テハ二「シルリング」六「ペンニー」ヲ受クルヿヲ得ヘシ

一千八百七十二年間ニ於テ試検ヲ受ケタル夜学校ニテハ学校會合ノ六十回及ヒ生徒出校ノ四十回ニ至ルモノハ此規条ニ従フテ助金ヲ受クルヿヲ得ルナリ

第二十四条　一週日ニ付キ二時間以下一年ニ

付二十週日以下ヲ以テ学識アル教官ニ就キ学習セシ児童ノ出席数ハ通常生徒ノ出校数ト共ニ算計スヘキヿトス

第二十五条　凡ソ何處ノ学校ニ論ナク十八歳以上ノ生徒出校数ハ算計セサル モノトス又昼学校ニ於テハ三歳以下ノ生徒出校数ヲ算計セス夜学校ニ於テハ十二歳ノ生徒出校数ヲ算計セサルヿトス

第二十八条　試検課目

第二課目

算術　乘算目録及ヒ簡短ナル除算ニ至ル

第三課目

算術　除算及ヒ雑則

第四課目

讀書試検官ヨリ撰定セル詩若リハ文章ノ二三行ヲ誦ス

習字　第一級生ノ用ユル所ノ讀本ヲ以テ二三語ツヽ摘出シ以テ之ヲ聽写ス

第五課目

算術　簡約法及ヒ商品目録

第六課目

算術 比例及ヒ分數

第三十二条 助金ノ減省ヲ論ス

凡ソ助金ハ第十三条ニ掲載セル如キ年ニ於テ下文登録スル如キ事情アレハ減省スヘキモノトス

第一 学校収納金ノ謝金答銀貢税等ヨリ成立セルモノ

第二 出校ノ平均数ニ従フヲ一名ノ生徒ヨリ十五「ルリング」ノ謝金ヲ出サシムルモノ

第三 入費ノ半額ヲ以テ毎年他ヨリ支給スルモノ

但シ褒賞賜與若クハ臨時非常ノ経費等ハ斯ノ如キ計算中ニ加ヒサルモノトス

凡ソ何等ノ学校ヲ問ハス其教官ハ授業ニ怠リ法則ニ背クヿアリ司事官ハ万般ノ弊害ヲ除クヿニ怠リ且書籍什器其他一切ノ器械ヲ備フルヿニ勉メサルヿアレハ巡察官必ス之ヲ査察シ助金全額ノ十分一ヨリ少カラス半額ヨリ多カラサルモノヲ減省スヘシ

若シ統学院ヨリ緊要事件ノ指令ヲ下スコトアリ
尓来六ケ月ノ後ニ於テ巡察官ヨリ巡回シ其指
令ノ能ク行ハレサルコトヲ上申スルニ至レハ其
校ノ助金ヲ減省スヘキコトス
一名ノ師範生徒四十名ノ生徒ニ教授スルコトア
リ一年ノ間ニ於テ第七十条ノ規則ヲ実行スル
能ハサルアレハ其生徒半数即チ二十名ノモ
ノ毎ニ一年ニ付二十磅金ノ比例ヲ以テ其校ノ
助金ヲ減省スヘキコトス
適当ノ証書ヲ受ケタル助教官ニシテ能ク第七

十九条ノ規條ヲ実行スルニ至レハ二名ノ師範
生徒ニ適当ス可キナリ
凡ソ生徒ノ中ニ於テ通常音楽ノ講習ヲ怠ルモ
ノアレハ全一年間出校ノ平均数ニ従フテ各生
徒毎ニ一「シルリング」ノ比例ニ由リ其校ノ助金
ヲ減省スヘキコトス
第四十条　凡ソ巡察官ハ常ニ学校中ノ簿書ヲ
点検シ其記載方法ノ如キモ各其宜ヲ得タルヤ
否ヤヲ承認スヘキコトス就中校中日記等ハ第
三十九条ノ旨趣ニ従フヲ記載セルヤ否ヤヲ検

査シ校中一切事務ノ成績ヲ考ヒ兼ネテ諸委員ノ増減任免等ヲ了知セシムルヲ要ス

第四十七条　毎年助金ヲ受クヘキ学校教官ハ渾テ年齢二十一年以上ニシテ師範生徒ノ卒業証書ヲ受ケ巡察官ヨリ優等生ノ許可ヲ得タル者ニ限ルヘシ

第五十九条　七歳以下童児ノ就学スル学校教官ハ年齢三十歳限リタルヘシ

第七十条　四名以下ノ師範生徒ハ一切諸学校教官ノ代理ヲ為スヿヲ得ヘシトス〔此条ハ一千八百七十三年第四月一日ヨリ施行スヘキモノトス〕

第七十五条　凡ソ教官ノ欠員アルトキニハ統学院ノ指令ヲ受ケ以テ之ヲ充補スヘキナリ

第七十九条　凡ソ師範学校入学ノ際ニ於テ信実ナル誓約ヲ為シ第九十一条ニ掲載セル試検ヲ受ケタルモノハ毎年ノ試検ヲ受ケスシテ助教ノ職ヲ奉スルヿヲ得ヘシ

第八十二条　凡ソ助教ノ職ヲ奉スル者ハ其拝任ノ申状ヲ統学院ニ呈シ該院ヨリ其准許ヲ受

ケタル当日ヨリ其負ニ加ハルヿヲ得ルモノトス

第九十条　凡ソ消費残金ハ一年ノ惣費ヲ精算シ統学院エ上申セル後ニ於テ速ニ決算スヘキモノトス

第二条目

約定証書ノ模式改正

第一条　五時ト記載セルハ六時ニ改ムヘシ二十五時ハ三十時ニ代フヘシ

第四条　六時ト記載セルハ五時ニ改ムヘシ

第五条目

第八則　八歳以下ノ童児ヲ教授スル昼学校ニ於テハ同級トシテ試検ヲ受クヘキ生徒尽ク第五則ニ照準シテ第二課ニ及ホスニ非レハ該校エ助金ヲ附与セサルヘシ

第九則　十歳以下ノ童児ヲ教授スル昼学校ニ於テハ同級トシテ試検ヲ受クヘキ生徒尽ク第五則ニ照準シテ第二課以上ニ及第スルニ非レハ該校助金金額ヨリ十分一ヲ減有スヘシ

○学校建築及ヒ修繕ニ関セル統学院法則

下条疏挙スル所ノ法則ハ統学院ヨリ布達セルモノニシテ一千八百七十年及ヒ七十一年ノ改正法則ニ遵由セルモノトス故ニ建築及ヒ修繕等ノ為メニ助金ヲ受ケタル諸学校ニ於テハ最モ宜ク躬認スヘキモノトス

緒言

凡ソ新ニ教場ヲ建築セントシ或ハ従来ノ教場ヲ修繕セントスルニハ先ツ預メ其中ニ容ルヘキ児童ノ員数等級ノ區分ト男女ヲ區別シテ教授スルヤ否ヤヲ考察シ各其便宜ニ従フテ之カ區畫ヲ論定センコトヲ要ス

凡ソ各級生徒ノ講習スルトキニハ毎級必ス一名ノ教官ヲ置クヘシ而シテ若シ已ムコトヲ得サルアレハ生徒中ヨリ秀拔ノ者ヲ擇ヒテコノ教官ニ充テ可ナリ然ラサレハ生徒ノ多キ遂ニ同時ニ講習スルコトヲ得サルヘシ

故ヲ以テ師範生徒ノ如キモ臨時已ムヲ得サルアレハ期限ヲ改メテ教官ヲ奉職セシムルコトアリ而シテ斯ノ如キ学校ニ於テハ校中須要ノ器具等ヲ検査シテ之ヲ其教官ニ貸与シ其便宜

ニ従フテ之ヲ使用セシムヘシ

斯ノ如キ教官若クハ生徒ノ最モ宜ク注意スヘキ大旨ハ全ク以下既挙スル所ニ在ルナリ即チ凡ソ教官タル者ハ自家ノ擔保シタル生徒ヲ懇々愛護シテ毫モ偏私ヲ挾マス諄々教誨シテ敢テ倦怠セサラシムヿヲ勉ムヘシ生徒タルモノハ粗ク教官ノ指令ニ従順シ以テ各自ノ勉励修成ヲ主トシ決シテ他人ノ喧呼ヲ妨害セス又其目的ヲ混淆セス且全生徒及ヒ教官ヲ管督セル校長ノ指令ニ反背セサルヿヲ要スヘシ

且ツ凡ソ教官ノ能ク生徒ニ教授セントスルハ宜ク其自家擔任セル生徒ヲシテ別室ニアラシメ他ノ障碍ヲ受ケスシテ自ラ能ク専心勉力セシメンヿヲ要ス故ニ其教場ナルモノハ彼此互ニ隔離スルヲ可トス若シ已ムヿヲ得サレハ廣濶ナル講堂ヲ作リ之ヲ数區ニ區分シ以テ其教場ヲ定ムヘシ其形狀ハ縱長ニシテ几案椅子等ハ壁面ノ一方ニ構置シ甲群乙群ノ中間ニ空處ヲ設ケ光沢アル暖簾ヲ掛ケ以テ之ヲ遮蔽スヘシ果シテ然ラハ各級生徒ハ几案ノ一群ハ静坐

シ他群ト相隔絶スルヲ以テ毫モ相妨害スルノ
弊ナカルヘシ教官ノ如キハ各級教場ノ前面ニ
直立シ傍ニ黒版及ヒ其他ノ器具ヲ備フヘシ又
コノ教場ハ宜シク寛濶ナランヿヲ要ス是レ授
業ノ時ニ当リテ各生徒ヲシテ起居周旋セシム
ルヿアリ或ハ教官自ラ動作スルヿアレハナリ
凡ソ教場ニ構置セル凡緊椅子等ハ林版ニ緊着
セサルヘシ是レ要用ナル時ニ於テ自由ニ各處
エ移動スルヿヲ得セシメンカ為メナリ然レモ
容易ニ顛倒スルヿナキヲ要スヘシ

教官若シ二群ノ教場ヲ合併シテ授業セント欲
セハ其中間ノ隔簾ヲ捲キテ互ニ開通セシメガ
ルレリー（腰掛ノ用ヲ為スヲ用ヒテ生徒ノ尽ク
之ニ坐セシラ要スヘシ否ラサレハ授業ノ際多
少ノ障碍ヲ生スルニ至ラシ故ニ各所教場ニ於
テハ必ス一箇ノ「ガルレリー」ヲ備ヘンヿヲ要ス
又凡ソ教官ハ能ク各個生徒ニ課業ヲ授与スル
ヲ以テ職務トナス可シハ決シテ他ノ事件ニ関
係ス可カラサルナリ
以上論述スル諸言ノ大旨ヲ擴充シテ下文疏挙

ルヿ所ノ規條ヲ設クルニ至レリ其詳細ハ左ノ如シ

第一 凡ソ教場ヲ建築スルトキニハ先ツ其坪數形狀等ヲ測定シ次ニ窓戸火炉等ヲ構置スヘキ方位ヲ考ヒ遂ニ其中ニ容ルヘキ生徒ノ員數ヲ算計セシヿヲ要ス

第二 凡ソ四十八名ヨリ百四十四名ニ至ル迄ノ童兒ヲ容ルヘキ學室ノ廣サハ大約十六「フィート」乃至二十「フィート」ナリ此廣袤ハ教官ヲシテ生徒ヨリ適宜ノ距離ニ立タシメノ生徒ヲシテ要用ナル所ハ自由ニ進退セシメンカ為メナリ且ツ其凡案椅子等ハ壁面ノ一方ニ在ラシメ中間ノ通路ヲ為スヘキヲ要ス

第三 凡ソ七歳以下ノ童兒ヲ教育スル學校ハ一般ニ四級ニ區分スヘシ是レ七歳ヨリ十三歳マテノ兒童學力ハ頗ル差異ヲ生スヘキヲ以テ斯ノ如ク區分スルナリ

第四 各個兒童ノ年齢ニ從フテ漸次ニ其凡案椅子等ヲ高カラシムヘシ是レ其生徒ノ長幼ニ由リテ用ユヘキモノナレハ常ニ教場ニ備ヘ置

カヒヲ要ス

第五 幼年生徒ノ用ユル所ノ几案椅子等ハ十八「インチ」ト定ムヘシ他ノ生徒ノ用ユル者ハ二十二「インチ」以上タルヘシ否ラサレハ習字等ヲ為スニ甚タ適合セサルモノナリ故ニ几案及ヒ椅子ノ長サハ十二「インチ」又ハ二十二「インチ」強弱ト定メタリ其比例ヲ挙クレハ則チ左ノ如シ

生徒一名ニ付キ十八「インチ」ノ長サトスルハ四名ヲ容ルヘキ一群ハ六「フイート」六「インチ」五名ヲ容ルヘキ一群ハ六「フイート」六「インチ」ノ長サナリ

六名ヲ容ルヘキ一群ハ九「フイート」ノ長サナリ

七名ヲ容ルヘキ一群ハ十「フイート」六「インチ」ノ長サナリ

八名ヲ容ルヘキ一群ハ十二「フイート」ノ長サナリ

生徒一名ニ付キ二十二「インチ」ノ長サトスレ

八

四名ヲ容ルヘキ一群ハ七「フィート」四「インチ」ナリ

五名ヲ容ルヘキ一群ハ九「フィート」二「インチ」ナリ

六名ヲ容ルヘキ一群ハ十一「フィート」ナリ

第六 凡案ハ全ク上面ノ平坦ナルヲ可トス或ハ稍斜面ナルモ亦可ナリ斜面ナル凡案ハ常ニ石筆洋筆等ノ轉墜シ去ルノ患トアリテ平面ナルモノニ如カス然レトモ平面ナル凡案ハ生徒ノ習字ヲ為スヤニ於テ直立セサルヲ得サルノ患ヒアリ

第七 凡ソ凡案椅子等ハ決シテナニ「フィート」ノ長サヲ過クヘカラスシテ一群ハ凡案ノ三列以上タル可ラスヤサレハ教官ハ其音聲ヲ高クシテ頓ル疲労セサルヲ得ス生徒ハ彼此ノ喧呼ニ由リテ教官ノ音色ヲ聽受スルヲ得サルナリ

第八 凡ソ各群ノ凡案ハ教官生徒ノ通行スル為メニ廣サ十八「インチ」ノ空所ヲ開キ以テ之ヲ

便ニスヘシ又暖簾ヲ捲キ或ハ之ヲ撤去スル為メニ三「インチ」ノ空所ヲ取リ以テ之ヲ隔離スヘシ

第九　若シ暖簾ヲ捲クトキニハ几案前面ニ四「インチ」以上ヲ出スヘカラス又一群ノ几案及ヒ「ガルレリー」ノ中間ニ空所ヲ置ク可ラス又数群几案ノ中間ニ窓戸若クハ火炉等ヲ置テ其列ヲ遮絶スル可ラス

第十　入室スヘキ児童ノ数非常ニ多クシテ五六群ノ几案ヲ列置セントシ其教場ノ狭小ナルトキニハ更ニ教場ヲ建築シ随テ教官ヲ増加スヘシ但シ斯ノ如キ教官ハ校長ノ管理ヲ受クヘキモノトス

第一　各學室并ニ各級生徒ノ室ノ壁ハ若シ壁板ト同一ナル高サニ於テ頂格ヲ張ル時ハ則床ノ平面ヨリ頂格ニ至ルマテノ距離少ナクモ十二尺アラサルヘカラス然ルニ若シ其室ノ床面三百六十平方尺ヨリ大ナル時ハ則其高十三尺ナラサルヘカラス若シ六百平方尺ヨリ廣キ時ハ則十四尺ナラサルヘカラス

終